

# 新漁業管理制度推進情報提供事業（漁況分野）

加藤美奈子\*1・下條 武・兼島久美子\*2・井上弘毅\*2・図南丸

## 1. 目的

漁獲統計情報収集事業で集積された漁況セリ情報をもとに、主要な漁業に関するデータを分析して得られた漁況情報と、沖縄近海（沖縄島南～西方）の海洋観測およびその他の海況データを用いて定期的（必要に応じて不定期に行うこともある）に漁況・海況情報を漁業者及び水産関係者に提供するものである。

## 2. 方法と情報処供の実績

### (1) 海況分野（概略のみ）

ア 沖縄島南～西沖合沿岸定線（図1）で、調査船図南丸（176 t）により観測を実施した。

観測項目は、

(ア) 水深1,000 mまでのCTD観測

(水温、塩分、DO、pH、蛍光強度、照度)

(イ) ADCPによる流況観測（10 m, 50 m, 100 m層）

(ウ) サーモサリノグラフによる調査

a. 表層水温塩分連続観測

b. 動物プランクトン調査

c. 一般気象海象観測

(エ) XBT観測（通常定線の北側6点）

（大陸棚上の観測点0～8からの復路）

観測終了後、出来るだけ早い時期に観測結果を関

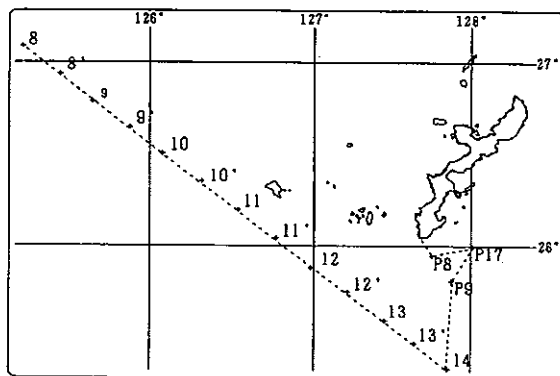


図1. 沖合沿岸観測定線

係漁業協同組合等へFAX送信した（6回）。

イ 観測以外でも図南丸が沖縄島南方および西方の

\*1 現所属 沖縄県水産課

\*2 非常勤職員

調査を実施する際は、P-8（25°58'N, 127°42.5'E）でXBT観測を実施し、結果を関係漁協等へFAX送信した。

ウ 定期航路船に観測機器を設置し、台湾～那覇～大東間の流況・水温を観測した。

観測方法は、毎週観測結果を携帯電話で研究室に回収し、航路上の流況（10 m層）と船底部水温（3～6 m）を図化处理した。

なお、この調査は西海区水産研究所との共同研究で、「飛龍21」（有村産業）、「だいとう」（大東海運）の協力によるものである。

エ ニライ（県設置の表層浮魚礁）、図南丸及び定期船飛龍21で構成されているニライテレメトリーシステムにより観測される水温結果を整理し、毎日（土日および国民の祝日を除く）県内各漁協や関係機関に提供している。

### (2) 海況分野

ア 漁獲情報の収集と分析について

漁獲統計情報収集事業で毎月提供される漁獲情報をもとに、本県の主要な漁船漁業である漁業種類について重点的に分析を行った。

(ア) パヤオ漁業

本島南部4漁協（糸満・港川・知念・沖縄市）について、魚種別・月別漁獲量および動向について分析した。

a. 主要7魚種の魚種別漁獲量：通年掲載

（マグロ・カジキ類、カツオ、シイラ等。）

b. 主要3魚種の月別漁獲量：7～10月掲載

（キハダ、シビ、シイラについて、過去5年間の当該月を含む前後5ヶ月が対象）

(イ) ソデイカ漁業

県内で水揚げの多い9漁協（糸満・知念・国頭・名護・久米島・港川・石川・伊江島・金武・八重山）を中心に、漁獲量を取りまとめた。

なお、全県の漁獲動向をより正確に把握するために、漁獲量の多い漁協は、漁獲統計情報収集事

業で情報収集されていないが、毎月FAXまたは電話で漁獲量調査を実施した。

a. 主要9漁協別漁獲状況：11月～6月掲載

(a) 当該月とその前月の漁獲量

(b) (a)の前年該当月の漁獲量

b. ソデイカ外套長頻度分布：11月～6月掲載

(a) 当該月の外套長頻度分布グラフ

(b) 当該月前年と前月の外套長頻度分布グラフ

(c) 当該月と前月の伸び率

(d) 各データの母数、平均外套長、偏差

ソデイカの漁獲量が最も多い糸満漁協から水揚げの仕切帳を借り受け、水産試験場で1匹ごとの重量データを入力し、その数値を外套長に変換し、その数値の頻度分布を求め図化した。

重量から外套長の数値変換は、過去に水産試験場が糸満漁協で水揚げされた外套長と重量の市場調査を行ったデータで作成された変換表を用いている。

c. 全国ソデイカ水揚げ状況動向調査

ソデイカは、日本海沿岸各県での水揚げも多く、本県の価格等に影響するため、同漁業関係者から情報収集の要望が高かった。

そのため、日本海沿岸各県の10府県（長崎・山口・島根・鳥取・兵庫・京都・福井・富山・石川・新潟）および太平洋側の2府県（鹿児島・東京）合わせて12都府県の水産試験場に各県の漁獲量調査の協力を依頼し、漁法・漁獲量の情報提供をして頂いた。このデータは毎月取りまとめて、関係各水産試験場に還元した。

d. 県内ソデイカ水揚げ状況調査

本県の漁獲データも、市場外流通（セリを通過しない）が主流のため、セリデータが中心の漁獲統計集計と実際の漁獲量に大きな乖離が生じていた。そのため、暫定値として県内で水揚げ実績の

ある25漁協に対して、毎月アンケート調査を依頼し、漁獲統計と別に暫定的な漁獲量・金額のデータをりをまとめ、県内関係各漁協および県水産行政関係機関に配布した。

(ウ) 定置網漁業

沖縄本島の主要7カ所の定置網所有の漁協について、主要10魚種別に漁獲量の集計と分析を行った。

また、漁獲情報収集事業で対象外の宜野座漁協の大型定置網も、水揚げ実績の情報収集を行った。

(エ) カツオ漁業

カツオー一本釣船が所属する本部（1隻）、伊良部（3隻）、池間（1隻）、八重山（3隻）の各漁協の漁獲状況を調査した。

本部は、本県のカツオー一本釣船としては最大（50t級）であり、水揚げも多いが、漁獲統計の対象外（水揚げは名護漁協に出荷されているため）だが、操業時期（4月～10月）は、独自にセリを行っている。このため、漁獲統計情報と別途に、カツオとシビの漁獲状況のデータを提供を受けた。これらの情報は年2回カツオに関する資料を取りまとめ関係漁協に提供した。

イ 情報提供の実績

海況に関係した情報提供の種類は、

(ア)「漁海況情報」：月1回

(イ)「バヤオ情報」：年1回

(ウ)「ソデイカ情報」：年1～2回

(エ)「定置網情報」：年1回

(オ)「ソデイカ月報」：11月～6月は毎月

(カ)「ソデイカ漁獲量の集計」：隔月1回の6種類がある（図2）。今年度は「バヤオ情報」と「定置網情報」が未発行となった。提供先と内容、発行時期は、表1のとおりであった。

種類	内容	発行時期	提供先
「漁海況情報」 (352号～363号)	海況：流況・水温・風向情報 漁況：パヤオ・ソデイカ・定置網情報	月1回 (翌月月末頃発行)	漁協、行政関係(県、市町村)、大学、 研究機関(水研、公設試)、水産関係業者等
「パヤオ情報」	主要3魚種(キハダ・シビ・シイラ)が中心の漁獲情報	年1回不定期 (今年度末発行)	漁協、行政関係(県、市町村)、大学、 研究機関(水研、公設試)、水産関係業者等
「ソデイカ情報9号」	全国・県内のソデイカの漁獲に関する情報(漁獲量・漁獲動向)	年1～2回不定期	漁協、行政関係(県、市町村)、大学、 研究機関(水研、公設試)、水産関係業者等
「定置網情報」	県内7漁協所属(読谷・宜野座・金武・石川・与那城・勝運・知念)の定置網の漁獲情報	年1回不定期 (今年度末発行)	漁協、行政関係(県、市町村)、大学、 研究機関(水研、公設試)、水産関係業者等
「ソデイカ月報」	県内25漁協(過去にソデイカの水揚げ実績のあった漁協)の漁獲量のデータ。	月1回 (翌月中旬頃発行)	県水産行政関係機関、県水産公社、県内 関係25漁協(国頭・名護・伊江・宜野座・ 本部・金武・今帰仁・石川・具志川支所・ 恩納・与那城・勝運・沖縄市・読谷・ 与那原西原・浦添宜野湾・糸満・港川・ 那覇地区・那覇沿岸・久米島・平良市・ 伊良部・八重山・与那国)
「ソデイカ漁獲量の集計」	年別都府県別ソデイカの漁獲量のデータ (平成元年～)	毎月～隔月1回程度 (沖縄水試と鹿児島水試で相互に実施)	12都府県水産試験場 (鹿児島・長崎・山口・島根・鳥取・兵庫・ 京都・福井・石川・富山・新潟・東京)

表1. 漁獲情報の種類、内容、発行時期及び提供

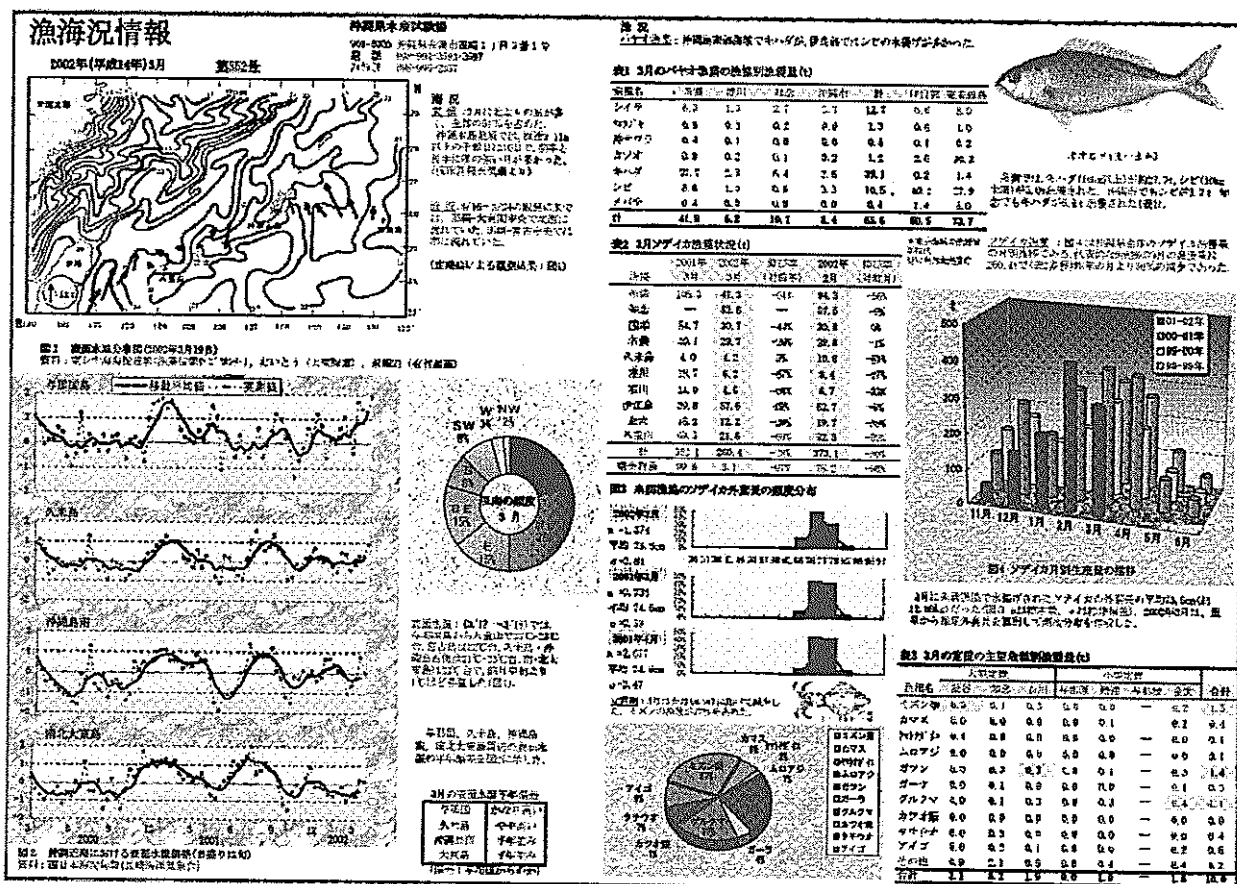


図2. 漁海況情報(左側が海況、右側が漁況情報)